

桜色の園庭で

礼拝堂から一步外にでると
そこは桃源郷ならぬ、桜の園。
子どもたちがいつも走る園庭は今年も
古木の桜が満開で出迎えてくれています。
遠景の、醍醐山の緑のなかにも
ほのかな桜色がそこここに灯り
新しいのちの季節のはじまりを
静かに教えてくれています。

先週、礼拝堂で職員研修があり
眼科の先生からお話をうかがいました。
「生まれてからの目の成長にとって
もっとも大事な時期は0歳から六歳
この時期に飛躍的に伸びていくんです」
特に大切なのは、たくさん目を動かしながら遊ぶこと。
小さいうちにスマホなどで
一点だけを見つめ続けないように、とも。

研修後、礼拝堂玄関を出られた先生の表情が
ぱっと明るくなりました。

さえずりとともに空中を横切る小鳥
山の向こうに色や形を変え、立ち現れる雲
いのち芽生える畑の中から顔をだす虫たち
遠い所、近い所、いろんなところに
興味をわきおこさせる何かがある

「子どもの目の成長にとって理想的
なんと素晴らしい園庭でしょう！」

たくさんの愛に包まれて桜色の園庭で遊ぶ子どもたちは
きっと神さまだって見えるようになるだろう

(つくし保育園園長 つだかずお)

<だいで教会より>

毎週日曜午前10:30より、子どもと大人一緒に礼拝しています。
聖書メッセージ、心暖まる讃美歌。卒・在園生、保護者様もぜひどうぞ